

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 22 日作成)

小委員会名	アジア・モンスーン地域の建築環境検討小委員会	主 査 名：高 偉俊 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：野城 智也
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・アジア地域の都市とその周辺の農村部における住宅エネルギー消費の実態を明らかにし、居住環境要因と住宅エネルギー消費の関連性を構造的に明らかにすること</p> <p>・ライフスタイルを考慮した将来予測を行なうことにより、エネルギー消費の増加を押さえつつ快適で健康な室内環境を実現するための省エネルギー政策の基礎となる資料を整備すること</p> <p>初年度：① アジアにおける住環境の実態調査，② 同地域における非住宅建築の実態調査，③ 自然エネルギー利用に関する調査，④ アジアにおける社会経済・地理データの収集</p> <p>2 年度：前年度①～④の活動を継続，加えて⑤ 住宅用エネルギー消費のモデル構築と分析，⑥ アジアにおける住宅部門省エネルギー対策の検討</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：高 偉俊 (北九州市立大学) 幹事：川上 梨沙 (清水建設) 委員：中上 英俊 (住環境計画研究所)、吉野 博 (東北大学)、外岡 豊 (埼玉大学)、久保田 徹 (広島大学)、一ノ瀬雅之 (東京都立大学)、宇野 朋子 (武庫川女子大学)、リジャル H バハドゥル (東京都市大学)、小西 純 (統計情報研究開発センター)、玄 姫 (住環境計画研究所)、福代 和宏 (山口大学)、Lim Eunsu (東洋大学)、高口 洋人 (早稲田大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://cityandbuilding.lowcarbodesign.asia/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>コロナ禍の影響により、東アジア・東南アジア各国に直接出向いての調査は困難となった。しかしながら代替策として、Zoom,等の遠隔会議システム等を活用することにより、海外共同研究者からの協力を得ながら実測・実験・解析等が実施された。アジアにおける社会経済・地理データの収集等は継続実施している。それ以外に遠隔会議システムの活用により、海外連携委員やオブザーバーの参加を得て、関連活動を進めている。活動成果の一部は拡大委員会（Zoom ミーティング）において発表している。その一部は下記のとおりである。</p> <p>6月7日にはローレンス・バークレー国立研究所主席研究員 Dr. Nan Zhou 「Accounting and Decarbonizing Building Materials in China」, 深セン大学建築都市計画学部長範悦教授「Shenzhen High Density Living Environment---Study on Relationship between Living Density and Quality」等により公開講演会を開いた。</p> <p>8月9日には浙江大学 Jian Ge 教授、Yifan Fan 教授により、「ライフサイクル炭素削減に基づく建物のエネルギー効率と健康性能の改善」について、スラバヤ工科大学上級講師 Didit Novianto 博士により、「ライフスタイルと私たちの未来の環境：アジアにおける家庭のエネルギー使用の分析」について、其々講演を行った。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 個別の調査研究は代替策（遠隔会議システムの活用、海外共同研究者との分担作業等）を講じることによりほぼ活動計画通りに実施された。</p> <p>2. 本小委員会の海外連携委員やオブザーバーは国内外に広く分散して活動していたが、コロナ禍により遠隔会議システムの活用が進んだため、集まるのが容易となった。今後も遠隔会議システムの活用を進める。</p>